

研究タイトル:

国際語としての英語の研究



氏名:	佐藤 奈々恵 / SATO Nanae	E-mail:	saton@tomakomai-ct.ac.jp
職名:	准教授	学位等:	修士(教育学)
所属学会・協会:	函館英語英文学会、全国高等専門学校英語教育学会		
キーワード:	国際語としての英語 (EIL: English as an International Language)		
技術相談 提供可能技術:	英語教育		

研究内容: 国際語としての英語の研究

1. 非英語母語話者の英語種の妥当性について

1970年代より、Larry Smith と言語学者によって提唱された「国際語としての英語 (EIL: English as an International Language)」の理論を通して、非英語母語話者の英語種の妥当性について考察しています。

EIL の理論では、英語という言葉の2面性(⇒英語圏の人々の「民族語」としての側面と、様々な国の人々がお互いの意思疎通のために用いる「国際語」としての側面)に着目し、後者の立場から英語をとらえた場合、(1)英語の所有権は英語を話す全ての人々に属し、(2)非英語母語話者は、言語的にも文化的にも英語母語話者に同化する必要はなく、(3)英語を話す全ての人々が非英語母語話者の話す英語種の妥当性を理解することの必要性が強調されています。

2. 「国際語としての英語」教育実践に向けた「言語意識教育」の必要性について

英語を「外国語(=英語圏の人々の「民族語」)」としてではなく、「国際語」として教えるための一方法として、EIL の理論に基づいた「言語意識教育」を実践することの必要性と、その教育方法の構築について研究しています。

今日、非英語母語話者の数は英語母語話者の3倍に及び、英語によるコミュニケーションの約80%が非英語母語話者同士によって図られていると言われています。こうした世界における英語使用の現状を踏まえ、日本人英語学習者が今後、世界の人々と対等にコミュニケーションを図り、国際社会の一員として自己を表現することができる「国際語」の使い手になるためには、語彙力や文法力といった言語運用能力に加え、「国際語」という言語への正しい理解と、多様な英語種に対する寛容な態度を育むことが必要不可欠であると考えています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	